

有井工業（緑区下九沢）は「総合製造技術会社」を掲げ、半導体製造装置など先端的な産業機器・プラントの設計から組み立てまでを担当しています。11人の少数精鋭部隊は大手企業を陰で支える技術者集団で、2代目の有井俊明社長自身も電気設計の技術者です。顧客の□□□□で新規開拓には困らないだけに「優秀なスタッフをいかに採用するかが経営の重要課題」という有井社長にお話をうかがいました。

—創業は1981年、創業者であるお父様も技術者だったのですか。

「機械設計の技術者だった父が会社勤めを辞めて創業しました。当初は特定のお客様1社についていく会社で、青焼きコピー機の修理から始めて紫外線露光装置などへ発展していきました。私が事業継承してから現在13期目、この10年でお客様は200社まで拡大し、毎月10社ほどの案件が動いています」

—装置全体をプロデュースするので

すね。「中心となるのは電気設計技術を生かした制御盤の設計・製作です。これに加えてお客様に必要なものをそろえて提案することが評価されています。お客様が機械設計も必要とするなら、メカも制御もそろえて提供します。お客様が機械メーカーなら、こちらは電気・制御に集中しつつ、求められれば設置工事まで担当します。そのために建設業の免許も持っています。費用も時間もかかりますので、ものづくりの会社で建設業の免許を持っているところは少ないのではないのでしょうか」

—得意とする分野は。

「半導体関連の装置が多いですね。露光装置や電源検査装置など、半導体製造装置の一部分を担当しています。プラント関連の搬送装置も全国各地で施工まで含めて担当しています。お客様からの紹介やホームページを見ての引き合いが毎月数件あり、おかげさまで営業担当者を置

少数精鋭でプラント設計

事業拡大へ技術者を積極採用

かなくても仕事に困りません」

—技術者を確保するのが大変ですね。

「全体設計のほか、電気や機械の専門家をそろえています。新規採用には積極的に取り組んでいて、今期も4月からの上期だけで27人の応募があり1人採用しました。即戦力の技術者を採用するのは難しいので、意欲のある人を採用して育てたいと思っています。いまは技術分野が専門化・細分化され、技術者が完成品



有井工業株式会社
代表取締役 **有井 俊明**さん

を見られなかつたりします。当社のように最終的な完成形を想像しながら工夫してもものづくりをするのは、楽しいし、やりがいがありますよ」

—新人の教育はどのように。

「社会人経験のない若い方でしたらビジネスマナーから教えます。技術はCADの使い方から入って設計を学んでもらい、専門的なノウハウはOJTで経験を積んでもらいます。行政など外部の研修

コースも利用して、クレーンやフォークリフトなどの資格取得は会社が費用を全額負担します。勉強したい社員は全力でフォローします」

—会社の将来像は。

「最近では新エネルギー関係の引き合いもあり、水素の発生装置や電気自動車の充電インフラ関連の仕事が始まりました。ITや半導体など『弱電』が注目されがちですが、大型の電力装置を扱う『重電』も絶対に必要な分野。当社が手掛ける制御盤を中心とした装置開発の需要は大きく、人さえ確保できれば売上高も拡大していきます。継続的に人材を採用し、私が70歳になる20年後までに社員数も売上高も10倍の会社になりたいですね」